

2016年3月期決算 アナリスト向け説明会 主な質疑応答内容

2016年5月10日
スズキ株式会社

(国内四輪)

Q1: 17年3月期における軽自動車市場の想定は？ 新モデル計画や、他社で起きている混乱の影響等も踏まえ、教えて欲しい。

A. 当初、17年3月期を180万台と想定し、当社の計画はシェア30%の確保を前提に54万台から55万台と見込んでいた。ただ、足元では景気も芳しくない上、過去の行き過ぎた競争に対する当社自身の反省を踏まえる必要もあると考える。

そのように行き過ぎた競争、つまり「お行儀の悪い」販売を続けていたのでは、軽自動車がいずれ「白モノ家電化」してしまうとの懸念もあり、昨年10月よりそうした販売を一切やめ、正常化に動いている。実際、以降は中古車価格も値上がりへ転じ、「メーカーがそういう気持ちになって本気で取組めば正常化する」との自信を得たので、これからはそのように「1台1台大切に売る」ということを徹底させる。そうした考えや、足元の諸々の状況を総合的に判断すると、全需は160万台ぐらいから180万台、最高でも横這いだらうとシビアに見ている。

ただ、同時に今年度は、登録車を16年3月期の8万1千台から10万台の販売に引き上げる計画。以前、国内全体市場における軽市場の割合が4割を占めると喜んでいましたが、先程の様なこれまでの反省も踏まえ、今後は品質や経済性を中心とした戦いに転換すべきと考える。従って、その市場構成比も30%から35%ぐらいが適当と考える。その上で、登録車は10万台の販売を目指す。

Q2: 国内生産能力100万台に対し、今後の市場縮小が見込まれる中、国内事業の収益性をどの様に維持していくのか？

A. 国内収益を工場稼働をもとに考えた場合どうなるかということだが、当社の場合、登録車を作る相良工場、商用を作る磐田工場、軽乗用の湖西工場などがそれぞれ20~30kmの距離にあるため、各々の工場稼働に合わせた人員の動きも比較的調整が取り易い。その為、平常勤務から交替勤務への変更、休出・残業の実施などの対応がし易く、工場の稼働率ということではあまり影響はない。

(アジア四輪)

Q3: 17年3月期は、四輪の生産に対し販売があまり伸びない計画となっているが、特にアジアでそのギャップが大きいように見受けられる。インドは今期7%増を見込んでいるので、それ以外のアセアンやパキスタンをどの様に見込むか？

A. アセアンは、タイもインドネシアも厳しい状況が続くと考える。景気回復についても、インドネシアを中心にもう2年ぐらいはかかるのではないかと。ただ、タイについてはエコカーの代替時期に入ることもあり、積極的な販促を掛けていく。パキスタンはタクシー特需がなくなるため、堅めに見ている。

Q4：インドは16年3月期も次期予想も順調と見るが、今後の収益性をどう評価するか？

A. インド市場も競争が激化する中で、マルチ・スズキもうかうかしてられない状況。そうした中、インドルピーは16年3月期の1.85円に対し、次期予想では1.60円と見ており、先程の説明にもあった様に▲266億円の為替差損を見込まざるを得ず、非常に厳しい状況。

ただ、インド国内を見た場合には、「バレーノ」や「ビターラ・ブレッツァ」などの上級機種への投入や、新チャネル「NEXTA店」の展開などにより、上級機種の拡販、及びそれ以外の機種への拡販も促進することで、収益力を付ける取組みを進めていく。

又、インドに限らず値引きに頼る販売はしない。「値引かずに売る」という実力を付けていくことに取り組む。

(欧州四輪)

Q5：欧州向けの輸出が増える計画だが、欧州事業の見通しは？ また、現状の為替水準であれば、輸出採算は一定程度の限界利益を確保できるか？

A. 欧州向け輸出が増えるのは、「イグニス」の輸出が始まることによるが、欧州の市場環境は様々な不安要素を抱え、必ずしも明るいとは言えないのが現状。

ただ、当社の場合、そうした日本からの輸出による新車投入に加え、ハンガリーから供給する「ビターラ」も引き続き好調なため、今年度の欧州販売自体は10%台の伸びを見込む。

また、輸出採算については、現状の為替環境であれば大丈夫と考える。

(二輪事業)

Q6：16年3月期、二輪事業は約100億円の赤字を抱えたが、今期は為替も厳しい中、どの様に黒字化を目指すのか。

A. 二輪の赤字は、市場ごとに赤字を出す国とそうでない国とがはっきりしてきたので、今年度は赤字国の抜本対策を進める。例えばインド二輪はこれまで赤字が続いていたものを、マルチ・スズキの協力の下、四輪との相乗効果もあり改善が進み、黒字化を達成した。欧米では一部赤字の会社があるが、「ハヤブサ」や「GSX-S1000」、「SV650」など大型車に重点的に取組めば、今期の黒字化は可能。残された問題としては、インドネシアの赤字が拡大したことだが、具体的に黒字に持っていくよう取り組んでいく。

(その他)

Q7：17年3月期の為替影響で主要通貨以外の其他通貨の想定レートと影響額は？

A. 次期予想の為替影響▲620億円の内、其他通貨の影響額は約▲165億円で、主な内訳は、パキスタンルピーが▲42億円（想定レート1.00円）、オーストラリアドルが▲25億円（想定レート80円）、ポンドが▲20億円（想定レート155円）、元が▲11億円（想定レート16円）、ニュージーランド・ドルが▲10億円（想定レート70円）。

Q8：VWと提携解消して以降、他社との提携が一つの課題と考えるが、現在の考え方をアップデートして欲しい。

A. VWから取得した自己株の内、約7千万株を消却、残りの5千万株の内、約半数を先日発行したCB用の受け皿にあてていることで、残りの分での提携の可能性はあるのかどうかという質問だが、CBは、グジャラート工場の既に決まっている第一期工事に対し、需要動向次第で第二期工事が前倒しになる可能性も勘案し、あくまでもその資金需要への手当てを主旨として実施したもの。従って、現状で提携については全く考えていない。

Q9：16年3月期における品質関連費用が、前年比でどれくらい利益にインパクトを与えたのか？ また、次期予想での想定は？

A. 16年3月期の営業利益への影響の中で、諸経費等の増を▲254億円としているが、この中の品質関連費用の増は▲100億円程度のマイナス影響となる。
尚、次期予想は16年3月期の実績をベースにほぼ同程度を見込む。

Q10：16年3月期の原材料影響+178億円とあるが、次期の見通しは？

A. 売上・構成変化等の中の原材料影響については、原油安の影響や為替が円高方向に動いた関係もあり、鋼材や貴金属等の価格が下がったことで、差益+178億円となったが、次期予想の中では、むしろ若干の差損方向で織込んでいる。

以上